< 運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	一般社団法人　横浜市都筑区医師会	事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム
所在地	（〒　２２４－００１５　） 横浜市都筑区牛久保西１－２０－２１		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

利用者・ご家族の幸せの実現のために「その人の生きるを支える　～寄り添い・理解し・尊重する～」をケアの理念におき、丁寧なケアを目指しています。 ・対象者としては、医療機器を使用している方、機能回復を望まれている方、がんや非がんのターミナル期の看取りなど、医療依存度の高い方々が、安心して自宅で過ごすことができるように努めています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦２０１９　年　２　月　２８　日	従業者等自己評価 実施人数	（　　１０　）人　　※管理者を含む

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦２０１９　年　３　月　８　日	出席人数（合計）	（　　）人　　※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	□自事業所職員（　８　人）　□市町村職員（　１人）　□地域包括支援センター職員（　０人）　□地域住民の代表者（２人） □利用者（　０　人）　□利用者の家族（　０　人）　□知見を有する者（　５人）　□その他（　　人）		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ．事業運営の評価 （評価項目 1～10）		１.2.について： 看多機サービスの役割について職員の理解が十分でないことが分かったので、適宜、カンファレンス等で伝える。 3.4.について： 新任育成体制ができていないため、育成メニューの流れを決め、育成する側のスキルアップを併せておこなう。(具体案は検討) 10.について： オリジナルの災害時対応マニュアル作成を行う。	１.2.について： 職員が、看多機サービスの役割が理解できるように、適宜、カンファレンスや研修等で伝える。 3.4.について： 育成メニューの流れを決め、育成する側のスキルアップを併せておこなう。(具体案は検討) 10.について： ・災害時対応マニュアルの作成中 ・日中の避難訓練は実施した。	１.2.について： 評価としては、昨年より１段階下がっているが、「あまりできていない」がなくなり「おおよそできている」が増えた。未々、全員が理念を念頭に日々のケアができていない。 3.4.について： ・育成メニューの流れを決め、マニュアルは作成中である。未だ、教育側の意思統一ができていない。 ・研修が２４時間勤務のため全員が参加できていない。 10.について： 災害対応マニュアル作成中で今年の中に完成させる予定。今年度の避難訓練は消防署と連携した。
Ⅱ.サービス提供等の評価	１.利用者等の特性･変化に応じた専門的なサービス提供（評価項目 11～27）	12.について： 各利用者の看多機計画の内容をカンファレンスで検討し、看護・介護で共有し、介護職からの意見を促すようにする。 17.について： 看多機計画書を利用者・家族に手渡しする時は、できるだけ十分な時間をとり、内容を共有する。	12.について： 全利用者の看多機計画を定期的にカンファレンスで検討する。 17.について： 看多機計画書を利用者・家族に手渡しする時は、訪問看護やケアマネ訪問時に十分な時間をとり、内容を共有する。	12.について： 評価は**昨年より、「あまりできていない」が 2 名増え、評価が下がっている。**計画したカンファレンスでの看多機計画の共有や検討ができなかった。 17.について： 昨年より、「よくできている」が 3 名増え評価は上がった。月１回のケアマネ訪問

				と看護で訪問する機会を増やし、家庭での生活を把握できるようにした。
	２．多機関・多職種との連携（評価項目 28～31）	特になし	特になし	特になし
	３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）	33.について 要請や依頼を積極的に受け、地域ケアプラや町内会等で地域住民向けに看多機サービスの PR をさせてもらう。 36.について 人工呼吸器患者の泊りの環境が整う体制を作る。 41.について 地域に向けた研修会を年 2 回開催する	33 について 今年度も積的に説明会を受ける。HP に出張説明会のお知らせなどを掲示する。 36.について 看護師が夜勤の時に人工呼吸器患者の泊りの受け入れを開始する。 41.について 地域に愛される事業所になれるように、中川地域ケアケアプラザに相談をしながら、場所貸し、ボランティアの活用などを計画する。	33 について ・今年度は、地域住民にむけた説明会等を開催せず昨年より評価も下がった。新任ケアマネ研修会等では、事業の内容等の説明を行った。 ・看取りは積極的に行い、精神障害グループホームと連携し、良い看取りができた。 36.について ・人工呼吸器利用者を 1 月より、月 1 回 1 日からの宿泊を開始することができた。 41.について 運営推進会議での提案により、マーマ保育園児が月 1 回、歌を唄いに来てくれるようになった。利用者が子どもたちに声をかけたり、頭をなでたりと喜ばれる。
Ⅲ．結果評価 （評価項目 42～44）		42.について 要介護度平均 4.0 でレクレーションが充実しにくいため、職員のレクレーションを意識付けるために「認知症予防音楽ケア体操指導員の認定講座」の受講を許可	42.について 職員のレクレーションへの意識高めるために「認知症予防音楽ケア体操指導員の認定講座」の受講してもらい、レクに反映してもらう。	42.について 「認知症予防音楽ケア体操指導員の認定講座」を 2 名受講し、認知症予防体操やハンドベル、ピアノなどの楽器も、少しづつレクレーションに反映できるように

	する。 43.について 喀痰等の研修終了者は 8 名となり、胃瘻注入や夜間の吸引なども対応できている。今後も継続し必要時は研修をしてもらう。	43.について 引き続き、介護職員の喀痰吸引等の研修は必要なメンバーに受講してもらう。	なってきた。 43.について 2 名の介護職員が喀痰吸引等の研修受講し、修了することができた。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ．事業運営の評価 （評価項目 1～10）		１.2.について： 皆が、理念として掲げた看多機の役割を念頭に日々のケアができていない。 3.4.について： ・育成メニューの流れを決めたマニュアルが未完成で、介護職員が育たない。 ・研修が２４時間勤務のため全員が参加できていない。 10.について： 災害対応マニュアル作成中で今年の中に完成させる予定。夜間の避難訓練ができなかったが、今年度の避難訓練は消防署と連携した。	1.2 について ・事業所のサービスに求められる役割を理解できるよう、カンファレンスの折に触れ事業所の役割を確認する(月に強化週間を設ける) 3.4 について ・介護職の育成のために育成マニュアルを完成させる。 ・目標達成のための面接を実施する。 ・介護職の育成のための人員配置を行う。 ・理解してほしい内容を穴埋めなど 10.について 施設の災害対応マニュアルを作成し、夜間の避難誘導で実施する。
Ⅱ.サービス提供等の評価	１.利用者等の特性･変化に応じた専門的なサービス提供（評価項目 11～27）	12.について： 看多機計画書は毎月評価もできているが、スタッフ間での共有や検討ができなかった。 17.について： 昨年より、「よくできている」が 3 名増え評価は上がった。月 1	12 について 利用者の目標を共有し実践できるようにカンファレンスで看護小規模多機能型居宅介護計画書を検討、共有する。

		回のケアマネ訪問と看護で訪問する機会を増やし、家庭での生活を把握できるようにした。	
	２．多機関・多職種との連携（評価項目 28～31）		特になし
	３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）	33 について ・今年度は、地域住民にむけた説明会等を開催せず昨年より評価も下がった。新任ケアマネ研修会等では、事業の内容等の説明を行った。 ・看取りは積極的に行い、精神障害グループホームと連携し、良い看取りができた。 36.について ・人工呼吸器利用者を 1 月より、月 1 回 1 日からの宿泊を開始することができた。 41.について 運営推進会議での提案により、マーマ保育園児が月 1 回、歌を唄いに来てくれるようになった。利用者が子どもたちに声をかけたり、頭をなでたりと喜ばれる。	33 について 運営推進会議参加者や地域ケアプラザに更に協力を仰ぎ、看多機の説明会等の機会を設け、本事業の内容等の周知を行う。 36.について 職員人員を増やし、医療依存度の高い利用者の受け入れを継続していく。 41 について ・運営推会議で検討した内容等を職員が共有し、地域包括ケアにおける看多機サービスの役割や課題等を理解することができる。 ・地域に愛され必要とされるように、地域に向けた研修会の開催やボランティの受け入れなどを行い、地域に開かれた活動を行う。
Ⅲ．結果評価 （評価項目 42～44）		42.について 「認知症予防音楽ケア体操指導員の認定講座」を 2 名受講し、認知症予防体操やハンドベル、ピアノなどの楽器も、少しづつレクレーションに反映できるようになってきた。 43.について 2 名の介護職員が喀痰吸引等の研修受講し、修了することができた。	42・43 について 職員雇用、ボランティアの活用、認知症ケア、レクレーション内容の充実をおこない、多様な利用者のニーズに対応し、個々の利用者の目標達成ができる。 44 について 看取りへの姿勢が介護看護で共有できるように介護職への看取りの教育を行う。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表［事業所自己評価・運営推進会議における評価］

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
Ⅰ　事業運営の評価［適切な事業運営］							
（1）理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	3	⑥			特になし	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		［具体的な状況・取組内容］ ・未記入１名 ・登録利用者に実践している。 ・気管切開や IVH 実施者など、医療ニーズの高い利用者（通常のデイサービスは受け入れ不可と荒れる利用者）の受け入れをできる限り、利用可能としてきている。 ・昨年、看多機の運営方針に掲げ明示したにも関わらず評価が「おおよそできている」になっているのは、周知されていないか、記載内容のあるように問いの意味を理解していない回答だと思われる。					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員が	1	⑥	2		改善計画で、唱和するのは、職員さんがついていけるか	✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	その内容を理解し、実践している	[具体的な状況・取組内容] ・未記入１名 **・職員全員が実践できているか、不明のため「おおよそできている」で評価した。** **・理念は、職員で作成をし、新任のオリエンテーション際にも作成過程も含め,意図を伝えている。** **・名刺裏に記載、事業所内にも掲げているが、職員の意識付けのために、日々のカンファレンス等においても、考えることができるようなファシリテートが必要である** **・内容を理解しているもののスキルアップのための学習が不足している。BPSD の対応、重度医療ケア、ターミナルケアなど、多岐に渡るため**				と思い、ヒヤリハットなどで、随時振り返えればいいのではないか。	ます ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
（2）人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		⑥	3	1	特になし	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ・介護職の育成計画が、まだ十分ではない。看護師の育成計画も見直しが必要である。 ・各職員の当年度を含めて中長期的な目					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		標は提示し個々の目標設定、育成計画作成のために面接をし、個別計画を作成し始めたが、作成のためのタイムリーな面接が十分にできていない。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		(7)	2		ケアプラは職員が 50 人、研修会を 2 回設定しても全員は出られない。穴埋めのテスト形式にして（防災関係）やったこともある。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・未記入 1 名 ・必要な研修は、必要なタイミングで実施されていると思う。積極的に研修を受ける職員も増えてきている。 ・育成年間計画は立案しているが、新規開業のために実務が優先し、勤務帯の違いもあり、全職員の研修参加の時間確保が困難である。 ・口腔ケアの行い方などを勉強会で学んだことを継続し、向上していけるようにとり組んでいる ・自ら確保している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情	(5)	4	1		特になし	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
	報を共有する機会が、確保されている	**[具体的な状況・取組内容]** **・昨年より、評価が上がり「よくできている」になった。** ・毎日のカンファレンス・カンファレンス記録の周知・申し送りノート・電子カルテなど情報の共有のための体制は確保しており、利用者の迎え時の情報をリーダーやカンファレンスで伝えるようにしている。 ・勤務時間の都合でカンファレンスに参加することはできない。					✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
（3）組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	2	(6)	1	1	特になし	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・昨年度からの要望に応え、決算後に会計報告をした。 ・保育園からの合唱などのボランティアを提案してもらい、翌月には開始することができた。 ・運営推進会議で話した内容等の確認が行えていない。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことが	2	(7)	1		特になし	✓ 「職員が、安心して働くことので

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
	できる就業環境の整備に努めている						きる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば､｢職員の能力向上の支援｣､「精神的な負担の軽減のための支援」､「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況･取組内容] ・介護職の医療依存度の高い人のケアに対する不安等に関しては、看護師が介護職に指導や支援をするようにしている。 ・スタフに声かけし、確認を行い、不安等があれば傾聴し、改善できるようにしている。 ・環境は整っていると思う ・ケアや介助を変われる時は、極力変わり、他のスタッフの負担軽減ができるように努めている。					
（4）情報提供･共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について､随時更新を行うとともに､必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	3	⑥	1		特になし	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の２つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況･取組内容] ・毎日のカンファレンスや申し送りの活用でおおよそできていると思う ・スマイル、申し送りファイル、カンファレンスを通して共有されている ・申し送りノート、カンファレンス記録、ICT 記録などから職員が自ら情報を確認するようにしているが、薬剤や利用者対					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
		応情報、水分排泄表等の更新がされていないことが多い。					
（5）安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	3	⑥			特になし	✓ 「各種の事故に対する予防･対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況･取組内容] ･未記入 1 名 ・インシデント、アクシデントレポートを共有し、予防策を検討している。今年度は、車椅子利用者の転倒予防について対応策を検討・実施している。 ･新しい医療機器等を使用するときには勉強会を開催している。 ・送迎やケア提供においては、職員がひとり立ちするまで同行し指導にあたり、利用者・職員のる様にしている。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	4	⑤	1		特になし	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば､「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材
		[具体的な状況･取組内容] ・連絡先リストあり。災害対応マニュアルが未完成のため、今年度中に完成させ					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
		る。 ・非常用扉や火災時開ける出窓がちゃんと開くのかを確認し、扉の前や消化器前には物を置かないようにしている。					料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ　サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
（1）利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		⑥	4		特になし	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		[具体的な状況・取組内容] ・不十分であるが、利用者や家族等の生活に合わせ、通所の曜日、送迎時間等も、個別に考え、24 時間の暮らし全体に着目してアセスメントはしている。					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	1	⑤	4		特になし	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえ
		[具体的な状況・取組内容] **・昨年より、「あまりできていない」が 2 名増え、評価が下がっている。** ・十分とはいえないため ・看護師も介護職も担当利用者を決め、					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
		毎月、計画作成者のケアプランをもとに、看護師が看護・介護計画を作成している。介護職が主体となって計画書作成と評価ができる体制が必要である。 ・看護のアセスメントの視点がもっと入ってくるといいと思う					ます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	3	④	3		特になし	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] **・ケアプランは、利用者やその家族の希望を記載し、その達成のために計画を作成しているが、人材不足の問題で、訪問、通所や泊りが、希望に添えない現状がある。** **・介護職としては、共有はしているが計画書の作成ができていない。**					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	1	⑥	3		特になし	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者の病状に合わせ生活機能が維持できるように計画を作成している。 ・椅子に座っている時間が長い人もいるので、時間があるときに体操やハンドベル等、身体を少しでも動かせる様に行っ					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ている。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	3	⑤	2		特になし	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の２つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者の病状に合わせ、肺炎のリスクや ADL の拡大による転倒のリスクなど、計画に反映させている。 ・ターミナル期の場合は、予後予測の表現に留意しながら計画書を作成している					
（2）利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	2	⑥	2		特になし	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の２つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・毎月の評価と計画作成をしており、利用者等の状況変化を把握し、計画に適宜反映している。 ・かたよっている利用者が多いと思う					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に	3	④	2	1	特になし	✓ 「訪問による、家族等を含めた居

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
	偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	**[具体的な状況・取組内容]** ・元々、泊りや通いの利用ニーズが高く、利用者の体調の変化に併せて、ご家族には協力を得ている。 ・月 1 回のケアマネ訪問による把握だけでなく、全利用者に訪問看護が月 1 回できるよう努めている。					宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	(6)	1	1	特になし	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] **・昨年より評価が下がった。** ・毎月の報告書の他に状況変化等、電話連絡、ICT(カナミック、モバカルネット)などで情報共有している ・ケアプランや主治医の治療方針を踏まえ看多機計画書作成や評価をし、主治医に提出している。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	(7)	1		特になし	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される
		[具体的な状況・取組内容] ・介護職は、状況変化や処置等ある時は、					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
		看護師に確認し効率的に業務が行えるようにしている ・看護職は医療的ケアを優先し、介護職は生活全般の支援を行っているが、介護職不足のため、柔軟にケアを率先して行うようにしている。 ・看護職が看護職以外のことをやっているのがすごい。(排泄介助や入浴介助を行っている看護師を見たことが無い)					看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	(5)	3	2		特になし	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・日々、報告相談はしている。 ・情報共有は毎日のカンファレンスや連絡ノートなどで、対応策の検討では、カンファレンスや看護・介護計画書を作成であるが、計画書作成にあたっては、介護職のかかわりが少ない。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	4	(3)	3		特になし	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の
		[具体的な状況・取組内容] ・利用開始から、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などサービ					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ス利用の目的をプランや看護・介護計画書に明確にしている。ケアの提案や情報共有に努めている。					1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	8	1		特になし	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・サービス開始時に分かりやすいようにパンフレット等で説明をしているが、サービス内容変更等などにも定期的に説明を繰り返しする必要がある。 ・サービス内容が複雑化しているので、理解を得るのが難しいことがある。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	7	1		特になし	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・未記入1名 ・看多機計画書は、月 1 回のケアマネ訪問時に説明等に努めている。 ・利用者等がどれだけ理解されているか、不明な点もあるため					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		・分からないので記入できない					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	(5)	5			特になし	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 医療的ケアの指導等は、利用者の療養の目標に応じて、家族や本人に指導等を実施できている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	4	(6)			特になし	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・終末期等の利用者については、必ず本人や家族の意向を聞き、その実現ができるようサービス内容の調整をしている。 ・通常のサービスの希望や意向については、人材不足のために反映できないことも多い。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	3	(4)	2		特になし	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・未記入 1 名					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
		・在宅生活の継続が困難になりそうなときは、家族の意向を把握し、医師に相談の上、療養場所も含め方針を検討・共有している。 ・施設入所への検討や申請の手伝いもしている					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	(4)	1		特になし	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の２つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] **・未記入１名** ・看取り期になったときには、主治医から利用者・家族へ説明をしてもらい、「看取りの同意書」を記載してもらっている。死ぬまでの経過を丁寧に説明している記録はない。今年度は 2 月 8 日現在で自宅死 2 名、施設死 2 名のお看取りを行った。 ・記録が十分でないと思うがおおよそできている。					
2. 多機関・多職種との連携							
（1）病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援してい	4	(5)	1		特になし	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファ
		[具体的な状況・取組内容] ・今年度は、11 名の新規があり内、4 名の退院前カンファレンスに参加してい					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
	る	る。その他にも電話や看護サマリー、訪問看護指示書を必ずもらい、円滑な在宅生活への移行に努めている。					レンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	(6)	4			特になし	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] ・新規利用者全員、訪問看護指示書をもらい、緊急時の対応を確認している。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	(7)	2	1		特になし	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・新規利用者全員、訪問看護指示書をもらい、緊急時の対応を確認し、病状悪化時は、再確認している。					
（2）多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利	4	(3)	2	1	特になし	✓ 「利用者のために必要となる、介

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
	用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	**[具体的な状況・取組内容]** ・デイサービスのメニューとして保育園園児の来所などの提案をもらい、実現できた。 ・運営推進会議に出ていないのでわからない。					護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
（1）地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	3	(4)	2	1	特になし	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の２つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・1ヶ月以内には、HP にアップし公表し、内部で必要な内容はカンファレンスで発信している。 ・自分が知らないだけかも知らないが、知らない。情報発信が不十分だと思う					
33	○ サービスの概要や地域にお		2	(4)	2	・連合の会長会議などあった	✓ 「積極的な啓発活動」について、

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	いて果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	**[具体的な状況・取組内容]** **・未記入 2 名** ・今年度は、地域住民にむけた説明会等を開催しなかったが、新任ケアマネ研修会等では、事業の内容等の説明を行った。				時に説明にきてもらう、またＮＨの見学会をするのはどうか？人集めは僕がやるよ。アンケートの結果みてそう思った。 ・地域への周知はケアプラザに相談してもらえれば協力できる。 ・パンフレットがあるなら、行政などの見える所に置いて宣伝するのもいい。	評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
（2）医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		1	1	(5)	特になし	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施してないていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」
		[具体的な状況・取組内容] ・未記入 3 名 ・訪問看護事業所は別にあるため、行っていない。					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
							の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	⑨	1			特になし	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・看護師が 7 名と多く、夜勤もしており、介護職も研修をうけて、24 時間対応可能な体制ができている。 ・痰吸引の研修を受けて、吸引できる介護職を増やしている					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	2	⑧			特になし	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] **・現在、人工呼吸器装着者が 1 名いるが、昨年度できなかった宿泊の受け入れを、看護師の夜勤に合わせて受け入れを開始できた。**					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	⑥	3	1		**精神障害グループホームとの良い連携で看取りをしたことなどの良い例があったので、是非、評価に具体的に入れても**	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くでき
		[具体的な状況・取組内容] **・自宅又は NH での最期を希望される方々**					

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
		にケースバイケースで応えていると思う ・がん末や高齢者の終末期も積極的に受け入れている。H28年度8名、H29年度3名、今年度は 4 名の看取り支援をおこなった。				**らいたい。**	ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
（3）地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		(5)	3		特になし	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ・未記入 2 名 ・入職時の看多機事業の説明において、地域包括ケアシステムにおける事業の位置づけ、期待されている役割等を説明しているが、職員がどこまで理解できているかは不明。					
② サービス提供における、（特定の建物等に限定しない）地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	(6)	3	1		特になし	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支え
		[具体的な状況・取組内容] 特定の集合住宅等へサービスの提供をしていない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							る核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		1	(7)		特になし	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ・未記入 2 名 ・運営推進会議においては、事業における課題提起は行っている。介護職の人材不足、医療依存度が高い人の送迎における人手と所要時間、制度の違いによるサービス利用の課題など					
41	○ 家族等や近隣住民などに対	1	2	(3)	4	特になし	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	**[具体的な状況・取組内容]** **・今年度は、地域住民や利用者・家族を対象とした取り組みができなかった。**					護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている 100%達成　3 名 2/3 達成　6 名 1/3 達成　1 名	１．ほぼ全ての利用者について、達成されている (2.) 利用者の２/３くらいについて、達成されている ３．利用者の１/３くらいについて、達成されている ４．利用者の１/３には満たない [具体的な状況・取組内容] ・人員不足で利用者の要望に応えられていない。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている 100%達成　4 名 2/3 達成　5 名 未記入　1 名	１．ほぼ全ての利用者について、達成されている (2.) 利用者の２/３くらいについて、達成されている ３．利用者の１/３くらいについて、達成されている ４．利用者の１/３には満たない [具体的な状況・取組内容] 人工呼吸器や気管切開の利用者へのサービス提供は、利用者家族が満足できるような量的なサービスの提供ができていない。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用	１．ほぼ全ての利用者について、達成されている (2.) 利用者の２/３くらいについて、達成さ		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている 100%達成　4名 2/3 達成　4名 1/3 達成　1名 未記入　　1名	れている ３．利用者の１/３くらいについて、達成されている ４．利用者の１/３には満たない ５．看取りの希望者はいない [具体的な状況・取組内容] 今年は４名の利用者の看取りとなった。自宅２名・施設２名であったが、利用者・家族の思いに沿って、看取りの場所等の選択できた。		提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「５.看取りの希望者はいない」